

## MHC 掲載レポートの訂正について

12<sup>th</sup> QCWS レポート総括担当 木村彰方 (認定制度委員会 前 QCWS 部会長)

MHC vol. 16 no. 1 p 33 に掲載された「第 12 回 HLA-QC ワークショップレポート (抗体部門) —FlowPRA 法—」中に誤り (以下の下線部分) がありましたので訂正します。

(誤) BD では 10<sup>1</sup>, BC では 10<sup>0</sup> 程度に。ただそうするとその位置ではわずかの違いを拾ってしまうことになりかねない。添付文書にもあるとおり BD では 10<sup>2</sup>, BC では 10<sup>1</sup> 程度に設定することにより非特異反応による影響を回避するのも有効だろう。

(正) BD では 10<sup>1</sup>, BC では 10<sup>0</sup> 程度に。ただそうするとその位置ではわずかの違いを拾ってしまうことになりかねない。添付文書にもあるとおり BD では 10<sup>2</sup>, BC では 10<sup>1</sup> 程度に設定することにより非特異反応による影響を回避するのも有効だろう。

# 日本組織適合性学会誌 MHC の投稿規定

## I. 投稿について

**内容:** MHC に関する基礎研究から臨床研究まで全てを対象にし、未発表の論文、他誌に投稿中でないものに限る。

**資格:** 著者(共著者を含む)は原則として本学会会員に限る。

**倫理:** ヒトおよびヒトの試料を用いた臨床研究・基礎研究の場合、1980年ヘルシンキ宣言(第18回 World Medical Assemblyにて採択)に基づくと共に、当該施設の倫理委員会の承諾を得たものでなければならない。また動物を用いた研究については「実験動物の飼育及び保管等に関する基準」(1980年日本学術会議決議)などを遵守し行われた研究でなければならない。

**種類:** 原著、総説、シリーズ、短報(研究速報、技術速報などを含む)、症例報告などとし、日本語、英語を問わない。

**審査:** 投稿論文掲載の採否は当誌編集委員会において決定し、審査は複数の査読制で行う。審査の結果を踏まえ修正、削除、加筆などをお願いする場合がある。

**著作権:** 本誌に掲載された論文などの著作権は日本組織適合性学会が有し、インターネットを通じて電子配信されることがある。

**掲載料:** 掲載は無料であるが、カラー写真など特別印刷に関わる経費は著者の実費負担とする(カラー印刷を希望の場合にはその旨明記)。

**別冊:** 別冊は有料とし、その経費は別冊部数やページ数による(別冊希望の場合は著者校正の際にその旨明記)。

## II. 原著執筆書式

### 1. 執筆要項

400字詰め原稿用紙換算で30枚(刷り上がり12頁程度)以内とする。図、表、写真は1個につき原稿用紙1枚分に該当しタイトルを必ず記載し挿入箇所を本文に明記する。本文は Microsoft Word で作成し、

図、表、写真は Microsoft PowerPoint を使用する。原稿は全て CD ロムに保存し、CD ロムに A4 サイズでプリントアウトした原稿 3 部を添えて編集長宛に送付する。

### 2. 第1頁目

表紙とし「原著」を明記し、日本語と英語でタイトル、著者全員の氏名と所属を記し、脚注として連絡責任者の住所、氏名、電話、FAX、E-mail アドレスを記載する。タイトル、著者名、所属は下記の形式に従う。

Susceptibility gene for non-obstructive azoospermia in the HLA class II region: correlations with Y chromosome microdeletion and spermatogenesis. Tetsuya Takao<sup>1</sup>, Akira Tsujimura<sup>1</sup>, Masaharu Sada<sup>2</sup>, Reiko Goto<sup>2</sup>, Minoru Koga<sup>3</sup>, Yasushi Miyagawa<sup>1</sup>, Kiyomi Matsumiya<sup>1</sup>, Kazuhiko Yamada<sup>2</sup>, Shiro Takahara<sup>1</sup>

- 1) Department of Urology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, Osaka, Japan
- 2) Department of Regenerative Medicine, National Cardiovascular Center, Suita, Osaka, Japan
- 3) Department of Urology, Osaka Central Hospital, Osaka, Japan

心移植における FlowPRA 法を用いた HLA 抗体検出の意義

山本 賢<sup>1</sup>, 佐藤 清<sup>1</sup>, 佐田 正晴<sup>2</sup>, 永谷 憲歳<sup>2</sup>, 中谷 武嗣<sup>3</sup>

- 1) 国立循環器病センター臨床検査部
- 2) 国立循環器病センター再生医療部
- 3) 国立循環器病センター臓器移植部

### 3. 本文—1: 日本語での投稿

• 2 頁目に 400 words 以内の英文要旨(和文要旨必要なし)、日本語および英語のキーワード(5 語以内)を記載する。尚、英文要旨作成については編集委員会

による対応も可能(希望の場合, 400字以内の日本語要旨を記載しその旨明記)。

• 3頁目より, 「はじめに」, 「材料と方法」, 「結果」, 「考察」, 「引用文献」の順に記載する。

- ① 専門用語以外は常用漢字, 新かなづかいに従い記述する。
- ② 本文中の英単語は固有名詞を除き全て小文字で統一する。
- ③ 地名, 人名, 学名は原語のまま用い, 薬品名は一般名を用い商品名は括弧内に記す。
- ④ 単位, 数量は国際単位 (cm, ml, g, Kg, pg,  $\mu$ l, %, °C など) を, 数字はアラビア文字を用いる。

#### 4. 本文—2: 英語での投稿

• 2頁目に 250 words 以内の要旨, キーワード(5語以内)を記載する。

• 3頁目より, 「Introduction」, 「Materials and Methods」, 「Results」, 「Discussion」, 「References」の順に記載する。

- ① 地名, 人名, 学名は原語のまま用い, 薬品名は一般名を用い商品名は括弧内に記す。
- ② 単位, 数量は国際単位 (cm, ml, g, Kg, pg,  $\mu$ l, %, °C など) を, 数字はアラビア文字を用いる。

#### 5. 引用文献

引用文献は本文中の引用箇所の右肩に片カッコ付きで番号を付し, 引用順に一括し記載する。著者名, 編集者名は筆頭者から3名まで列記し, 他または *et al.* とする。

1. Shi Y, Yoshihara F, Nakahama H, *et al.*: A novel immunosuppressant FTY720 ameliorates proteinuria and alterations of intrarenal adrenomedullin in rats with autoimmune glomerulonephritis. *Regulatory Peptides* (127): 233–238, 2005.
2. Tongio M, Abbal M, Bignon JD, *et al.*: ASH#18: HLA-DPB1. *Genetic diversity of HLA Functional and Medical Implication* (ed. Charron D), Medical and Scientific International Publisher, p. 134–

136, 1997.

3. 難波行臣, 今尾哲也, 石黒 伸 他: 既存抗体陽性生体腎移植後に生じた抗体関連型拒絶反応に対して血漿交換および免疫グロブリン大量療法 (IVIG) が奏効した1例. *血管外科* 17: 36–40, 2005
4. 佐田正晴, 高原史郎: 腎移植—組織適合と拒絶反応. 新図説泌尿器科学講座 6 「腎疾患, 神経泌尿器科, 老年泌尿器科」(吉田 修 監), Medical View 社, p. 120–125, 2000.

### III. 短報(研究速報, 技術速報などを含む), 症例報告執筆書式

#### 1. 執筆要項

400字詰め原稿用紙換算で15枚(刷り上がり6頁程度)以内とする。図, 表, 写真は1個につき原稿用紙1枚分に該当しタイトルを必ず記載し挿入箇所を本文に明記する。本文は Microsoft Word で作成し, 図, 表, 写真は Microsoft PowerPoint を使用する。原稿は全てCD-ROMに保存し, CD-ROMにA4サイズでプリントアウトした原稿3部を添えて編集長宛に送付する。

#### 2. 第1頁目

表紙とし「短報」「症例報告」を明記し, 日本語と英語でタイトル, 著者全員の氏名と所属を記し, 脚注として連絡責任者の住所, 氏名, 電話, FAX, E-mail アドレスを記載する。タイトル, 著者名, 所属は「原著」の形式に従う。

#### 3. 本文(日本語および英語での投稿)

- 2頁目に, 英文要旨(200 words 以内), キーワード(3語以内)を記載。
- 3頁目以降は, 原著執筆書式 3. の3頁目以降に準じる。

### IV. 総説, シリーズその他

編集委員会からの依頼を原則とするが, 会員からの投稿も大いに歓迎する。日本語を原則とする。総原稿枚数は編集委員会指定し, 原則的に原著執筆書式に準じる。

## V. 原稿送付先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

大阪大学大学院医学系研究科 J8

先端移植基盤医療学

日本組織適合性学会誌 MHC

編集長 高原 史郎

担当 谷本 佳澄 &lt;E-mail: tanimoto@att.med.osaka-u.ac.jp&gt;

Tel: 06-6879-3746 Fax: 06-6879-3749

	総原稿枚数 (図表, 文献含む)	図表数	文献数	要旨	原稿タイトル 所属, 著者	キーワード 数	査読	著者 校正
原著	30 枚以内	5~10 個 以内	20 個以内	英文原著 英文 250words 以内 和文原著 英文 400words 以内	和英併記	5 個	有り	1 回
短報, 症例報告	15 枚以内	5 個以内	10 個以内	和文, 英文とも英文 200 words 以内	和英併記	3 個以内	有り	1 回
総説, その他	その都度指定	適宜	20~30 個前後	和文 400 字以内	和英併記	5 個	なし	1 回

### 編集後記

2009年第2号のMHCをお届けします。

今号は9月25日より名古屋国際会議場で開催されます第18回日本組織適合性学会大会プログラムを掲載しております。今大会のメインテーマは「HLA Revisited」。幹細胞移植、臓器移植に加え再生医療・免疫療法などHLAの重要性が再認識される今、あらためてHLAの基本を知り、同時に最新の臨床知見をえられる内容になっています。是非、ご参加ください。

また巻末には第8回日本組織適合性学会近畿地方会のご案内をしております。近畿地方会といっても、毎年、全国から参加をいただき、また大会さながらの講師陣によるレクチャートークもあり、非常に充実した地方会になっています。地方を問わず、多くの参加をお待ちしています。

日本組織適合性学会にお世話になり、はや13年。臨床現場からのHLAの必要性に比例して、本学会大会の内容は常に進化しています。特に輸血・移植履歴がなくともHLA抗体が検出されるという報告から、HLAタイピングだけでなく、HLA抗体検出の必要性が明確となり、これらの検出技術は目覚ましい進歩を遂げています。私自身、生体成分中のHLA-G抗原の解析を行っているので、このような検出技術には非常に興味があり、安価で正確な技術が多く報告されるのを期待しています。また技術の進歩とともに、HLA抗体産生機序の解明という古くて新しい難題が提示されました。HLA研究の歴史は長く、ほぼ理解しつくされたように思われがちですが、やはり単純でなかったHLAのからくりを見たようで、あらためて『HLAはおもしろい』と思いました。技術の進歩が新たな難題を提示し、その解明が治療成果に結びつけば、それが、臨床家・基礎研究者・技術家のすべてが集結した本学会の一つの意義であると感じます。本学会のさらなる発展を祈念します。

下嶋 典子

### 「MHC」バックナンバー

一冊¥2,000にて購入できます。学会事務局までお問い合わせ下さい。なお在庫僅少の号もありますので、万一品切れの際にはご容赦ください。

### 入・退会、所属・住所・連絡メールアドレス変更

各種の申請は、学会事務局で受け付けます。

日本組織適合性学会事務局

〒113-8510

東京都文京区湯島 1-5-45

医歯学総合研究棟 (II) 22F

東京医科歯科大学 難治疾患研究所

分子病態分野 内

電話 03(5803)4906

FAX 03(5803)4907

電子メール [jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp](mailto:jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp)

### 日本組織適合性学会ホームページ

学会活動に関する情報やHLA遺伝子の塩基配列情報が利用できます。

<http://square.umin.ac.jp/JSHI/mhc.html>

<http://jshi.umin.ac.jp/mhc.html>

## MHC

Major Histocompatibility Complex

Official Journal of Japanese Society for Histocompatibility and Immunogenetics

2009年8月25日発行 16巻2号, 2009

定価 2,000円

発行 日本組織適合性学会(会長 木村 彰方)

編集 日本組織適合性学会編集委員会(編集担当理事 高原 史郎)

平成8年7月24日 学術刊行物認可

日本組織適合性学会(事務局担当理事 木村 彰方)

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45 医歯学総合研究棟 (II) 22F

東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野内

印刷・研究社印刷株式会社

〒352-0011 埼玉県新座市野火止 7-14-8